

住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第71号 平成22年11月30日
発行 住友化学(株) アグロ事業部
お客様相談室 0570-058-669
編集者 佐伯晴子
発行責任者 古津昇

目次

農家さん訪問記 (56)	p.1
住友化学アグログループ紹介 住化農業資材(株) .	p.5
西瓜・スイカ雑学 (10)	p.6
今月の肥料紹介	p.8
今月のお奨め農薬	p.9
今月のご相談から	p.10
農薬登録情報	p.11
病虫害発生情報	p.13
最近の「お・美味しい!」	p.14
コラム・そば談義	p.15
編集後記	p.15



マルハナキ(マンサク科)とビンズイ(セキレイ科)
富樫 信樹 画

農家さん訪問記(56)

九州で生産量NO.1のブロッコリー産地を目指す!

今回は長崎県の島原半島を訪ね、ブロッコリーの周年栽培に取り組んでいる岩永 篤(あつし)さん(63才)にお話を伺いました。島原半島は長崎県の東南に突出した周囲138.3kmの半島で、普賢岳(1,359m)を中心とした雲仙山系と、それに連なる緩やかな丘陵地帯と海岸沿いに広がる平野部からなっています。岩永さんのブロッコリー畑がある雲仙市吾妻町は、島原半島の北端にあり、階段状に基盤整備された畑からは諫早湾干拓潮受堤防が遥かに望める、風光明媚なところです。(訪問日10月13日)

酪農から野菜栽培への大転換!



岩永 篤さん

岩永さんの家族構成は、お母さんと奥さん、長男夫婦、長女の6人家族です。末の娘さん(次女)は嫁いでいるとのこと。岩永さんのお父さんは今年の春にお亡くなりになり、ブロッコリー栽培はご夫婦と息子さんの3人で取り組まれています。また、息子さんのお嫁さんは勤めに出ています。

岩永さんのお父さんの時代は、この地域で盛んであった「みかん栽培」をするだけの土地が無かったため、和牛の繁殖を手掛けていました。しかし、先行きの見通しがつかず、酪農とじゃ

がいもなどの野菜に転換しました。

そのお父さんの後を継ぐために17才で全寮制の経営実践農場に入り、酪農を目指すことになりました。しかし、酪農だけでは経営が厳しく5年前からブロッコリーを主体に栽培することになりました。酪農は息子さんに任せていましたが、今年の5月に全頭出荷して酪農は完全にやめたそうです。そして現在は息子さんも一緒になって、ブロッコリー栽培に取り組んでいます。酪農を止めてブロッコリー栽培に絞れたのは、ブロッコリーなら安定経営が出来るかと確信を得たことです。

生産部会長としてご活躍！

岩永さんの土地は水田を含めて約3ヘクタールですが、近所の水田や畑を借りて、二期作を含めて延べ約8ヘクタールでブロッコリーを栽培しています。また、JA島原雲仙西部地区野菜部会長として、安心、安全をモットーに安定供給産地化を目指して周年出荷可能な産地形成に取り組んでいます。部会として、エコファーマーの取得はもちろんのこと、土作りに重点を置き、環境保全にも努めています。



石垣の段々畑にブロッコリー栽培

部会の主な活動としては、定例会の実施（生産状況、販売状況、部会活動内容の協議）

品種別の出荷目揃え会の実施（会員農家が農産物を持ち寄って、規格等にバラツキが無いようにするのが目的）、栽培予定地の土壌分析（ネコブ病対策、施肥設計）、出荷計画です。JA島原雲仙管内でのブロッコリー作付面積は約150ヘクタールですが、岩永さんの所属する吾妻地区だけで約110ヘクタールを占めています。現在の会員数は37名で、平均年齢は50才代前半とのことです。この中で岩永さんのようなブロッコリー専門の会員は4～5名ですが、かなりの農家の人達が「専門またはブロッコリー主体」の経営を目指しているのがとても頼もしいと、明るい表情でお話しているのが印象的でした。各農家ともここ3～4年で栽培面積を拡大してきているようですが、現状では15名の会員で管内出荷量の75%を占めているようです。

ブロッコリー栽培で最大のテーマは、収穫や出荷作業の労働力確保のようです。昨年「農援隊事業」（農業支援に斡旋する3年の時限事業）を通じて労働力の確保を図っています。JA島原雲仙西部地区では17名の農援隊が割り当てられていますが、人数が少ないので岩永さんのところには、なかなか順番が回ってこないのが悩みだそうです。当然ながら、会員は経験者を希望するので、余計人の確保が難しいようです。アルバイトも常勤なら働いてくれる人はいますが、フルに働いてもらう仕事が無いのが実態で、これからどのように労働力を確保するかというのが大きな課題です。岩永さんの収穫時の作業分担としては、収穫作業は家族3人で行い、ダンボールの箱作りと詰め込み作業をアルバイトに任せているとのことです。

ブロッコリーの周年栽培

今年は島原半島も猛暑による干ばつで、大変だったとのことでした。基盤整備の完了している畑は灌漑設備がある為問題はありませんでしたが、未整備の畑はタンクに水を入れて車で何度も運んで灌水しなくてはならず、その労力は大変なものでした。



諫早湾干拓 潮受堤防

育苗ハウスで128穴のトレーでセル苗を育てていますが、100%完全な苗は出来ない為、選別して半自動移植機で植え付けています。10アール当り4,500~5,000株を植えますが、収穫時の箱詰めは20玉入れ(6kg)で180箱が基準です。ブロッコリー栽培で一番大変なのは「収穫作業」です。収穫時期をずらしていますが、気候や品種の特性から収穫時期が重なってくる場合があります。朝6時頃から収穫作業を始めても、午前中だけで終わらなくて、JAの集荷場への搬入時刻13~15時に間に合わないこともあります。このような場合は「予冷

庫」で保管して翌日の出荷に回しています。

ブロッコリーは周年栽培となるように、8月中旬から時期をずらして次々と植えていきます。それに合わせて収穫は10月中旬から翌年6月まで続きます。収穫した畑は1ヶ月ほど休ませて、また植えていきます。7~9月の3ヶ月間だけ出荷はありませんが休みはなく、この間にソルゴーを栽培し、これを粉碎して緑肥として畑に鋤き込んでいるので、盆も正月もないそうです。

品種特性を生かして栽培体系確立！

岩永さんが栽培体系に組み込んでいる主要品種は次の3品種です。

ピクセル(年内と春収穫用)...は種時期が広く早く収穫出来る、粒のきれいな品種です。

しき緑96号(12月から収穫の冬穫り用)...濃緑で締りの良いドーム型でボリューム感のある花蕾が採れます。

チャレンジャー(3月までの早春穫り用)...生育が旺盛で厳寒期の栽培が容易な品種です。

ブロッコリーに被害を与える病害虫についても伺いました。害虫ではコナガ、ヨトウムシ、病害では根こぶ病、べと病、黒腐病が主なものです。この中で最大の問題は、数年前から発生している連作障害とも言える「根こぶ病」です。この対策に資材(ネビジン等)を投入して被害を軽減してはいますが、この防除コストも結構大変です。収穫時に茎べと(葉柄部に発生するべと病の通称)を見つけることもありますし、ブロッコリーの花蕾に虫が入りこんでいたりしますので、これらを取り除いて出荷しています。施肥についてはJAが土壌分析をした上で、畑にあった施肥設計をしてくれていて助かっていますとのことです。



ブロッコリーの花蕾

市場拡大を目指してチャレンジ！

現在、出荷に当たっては、住友ベークライトの「P-プラス(多孔質の包装資材)」を使って鮮度保持を計っています。この資材は、ブロッコリーの呼吸量に対応してガス状態をコントロ



畑の向こうに薄っすらと普賢岳

な輸送対策、共選、そして土地改良で圃場の基盤整備を促進することにより、ブロッコリーの従来の生産地（北九州や糸島郡）を質、量ともに上回り、九州NO.1を目指して日々努力しています。

インタビューを終えて、ブロッコリー畑を見せて頂きました。そこは基盤整備が完了していて、石垣を積んだ立派なものでした。その場所からは、諫早湾干拓地と雲仙普賢岳が一望出来る、素晴らしく眺めの良いところでした。

あしがき

岩永さんのお宅を訪問する前に、弊社長崎県担当の案内で「諫早湾干拓事業」で最も注目された全長7kmの「潮受堤防」を見学することが出来ました。この堤防は諫早湾の湾奥部を閉切り、調整池を設置することで灌漑用水の確保と大規模（約942ha）で平坦な優良農地の造成を可能にしたものでした。

一方、潮受堤防で閉じられたことによる「環境破壊」や「漁業被害」というマイナス面も報じられています。このように一つの事業にはプラス面とマイナス面があり、報道ではマイナス面ばかりが強調される傾向があります。

農業関係者から見ると「潮受堤防」のお陰で、集中豪雨時の冠水、塩害が防止できる上、調整池の水位を1m低くしたことで排水が良好となり、水田だけでなく畑作振興の面からもメリットが大きいことが良く理解出来ました。さらに、干拓地のさらなる有効利用という観点から、ブロッコリー栽培を導入する機運もあると伺いました。

ところで、福岡から長崎に向かう途中の大村湾パーキングエリアで食べた「びわソフト」が、ビックリするほど美味でした。そういえば「びわ」の生産量は長崎県がダントツで日本一であることを再認識した次第です。

今回の取材に当たっては、JA島原雲仙営農部西部基幹営農センター営農指導課・林課長と(株)温仙堂島原営業所・秋田所長に大変お世話になりました。ご多忙中にも関わらず、インタビューとともにブロッコリー圃場もご案内頂き有難うございました。（小川、古津）



JA島原雲仙 営農指導課課長林さんとお二人で

[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介 **住化農業資材株式会社**

新発売 大口径、大流量のファインフィルター 80

特殊繊維メッシュの効果で、ろ材（エレメント）洗浄が簡単

発売以来、「ろ材洗浄が簡単」と大好評のSNZ ファインフィルター 50 に大口径の 80 が新しく仲間入りしました。75 の配管だけでなく、付属のプッシングを使うことによって 65 の配管にも使用できます。

新発売の 80 タイプは、内部エレメントが従来の 50 タイプより長くなり、処理流量も 1.5 倍の 600 リットル / 分まで可能となっています。



（左）ファインフィルター 80 （右）ファインフィルター 50

現場での使用例

ディスクフィルターのエレメント部分を覆っている繊維メッシュは、ゴミの付着しにくい特殊な表面形状となっています。そのため、

1. エレメント内部へのゴミの侵入を防止する。
2. フィルター内部を満水状態にし、洗回流を起こすことによって洗浄ができる。
3. エレメントに水をかけるだけで、メッシュ表面についたゴミを取り除くことができる。

	SNZ ファインフィルター 80	50
使用圧力	0.5MPa	
最大流量	600 リットル / 分	400 リットル / 分
ろ材	ディスクエレメント 80 メッシュ 繊維メッシュフィルター 120 メッシュ	
付属品	排気弁、排泥弁各 1 個	
	3×2 ソケット 2 個 3×2・1/2 プッシング 2 個	2×2 ソケット 2 個
別売部材	専用架台、コネクター付圧力計	

お問い合わせはこちらまで

住化農業資材（株）本社 灌水資材部 TEL：06 - 6204 - 1241

北海道営業所 TEL：011 - 382 - 2541 東日本営業所（栃木）TEL：0285 - 23 - 1935

四国営業所 TEL：0897 - 32 - 3684 九州営業所 TEL：0968 - 37 - 4450

インターネットホームページ上にて、ファインフィルターの動画配信中

<http://www.sumika-agrotech.com>

[目次へ戻る](#)

西瓜・スイカ雑学(10)



スイカと3匹の猫

スイカつる割病

「舞病」、「まう」といって恐れられたー

スイカつる割病は、明治30年(1897)の奈良県田原本町の精農家・松井寅蔵氏の耕作日誌に「舞病」と書いてあって、本病が古くから発生していたことを物語っています。スミスがアメリカ・南カロライナ州において、本病を発見したのが1894年のことですので、ほぼ同時期にわが国にも「つる割病」が広く存在したことになります。ちなみに、わが国における本病の初発見は1914年(岡田)静岡県になっています。

植物の病名は、その症状に由来することが多いのですが、「舞病」とは、スイカのつるが萎れて枯れる状態をさしています。本病は被害茎の基部より縦に亀裂して樹脂を出すことがあります。必ずとはいえず突然に株全体が萎れる「青枯れ」、「萎ちよう」症状から村田ら(1936)は、「つる割病(萎凋病)」としているところです。スイカの生育最盛期に、つるの節間が縦に割れる症状(萎れたり、枯れたりはない)が「つる割病」と混同されることがあります。これは生理的なものとされており、むしろ発育のよい証拠とされています。

スイカは毎年同じ場所・畑に作れない連作障害の出やすい作物・野菜のひとつです。その主な原因は、根部から侵入した一種のカビに起因する「つる割病」で、株枯れするために収穫皆無になります。大和スイカの隆盛期に収穫皆無の惨状を極め、ついに昭和3年7月奈良県令で対策を講じました。その条文には発病枯死した株は引き抜き、これを焼却すること。収穫を終わった後は直ちに株を引き抜き、茎葉根ならびに廃果を敷き藁とともに焼却すること。輪作を行うこと。これが有名な「スイカつるの焼却令」です。今ではむやみな野焼きは禁止されていますし、敷き藁は貴重な有機物資源として土壌に返したいところですが、見聞する限り生産者には、この風習が今も残っており、収穫直後に直ぐに火をつける人が多いように思われます。



スイカつる割病による株枯れの症状



県令によるスイカ茎葉の焼却風景(村田原図)



スイカの接木風景



ユウガオ台の接木スイカ苗



ユウガオつる割病による萎ちよう症状

この難病のつる割病対策として、昭和初期に兵庫県明石市の篤農家が秘策として始めた接木栽培が各地に普及していきました。台木（根）がユウガオ、カボチャ、トウガン等で、地上部がスイカという組み合わせでスイカつる割病はほぼ完全に防げるようになりました。これは手先の器用な日本人の生み出した特筆すべき技術で、もう一つの特技・接木ロボットも開発されています。

しかし、世の中には難敵が現われるもので、昭和49年(1974)にユウガオを侵害する「ユウガオつる割病菌」が産地にまん延して、折角の接木の効果がなくなる被害が各地で起こりました。それも特定の種苗会社の一品種で、種子伝染が極めて濃厚であったのと、前年まで実施されていた水銀剤による種子消毒が廃止されたことが大きな要因ではないかと考えられ、一薬剤の登録失効で思わぬ影響が及ぶ事例でした。その後のユウガオ種子の詳細な調査・研究の結果から採種現場で種子の内外に病菌が付着しており、薬剤と乾熱(75℃、7日間)の二重消毒するか、カボチャ、トウガンなどの台木に替えるのが有効な対策となりました。現在では、各方面の努力によって、本病の発生はほぼ制御され、ユウガオ台が安心して使われていることを付記しておきます。

(小玉技術顧問)

[目次へ戻る](#)

今月の肥料紹介

発売以来 50 年、液肥の定番「住友液肥」



住友液肥は、昭和36年に日本で初めての液体肥料として生産を開始し、液肥の代表商品として約50年間国内で愛用されてきました。灌漑水への混用、あるいは葉面散布で、野菜・果樹・花き・芝生・茶など各種作物に使用することができます。

住友液肥の主な特長

水になじみ易く、拡散性が高いため、土壤中によく浸透して早く吸収されます。また、流亡が少ないため、施肥効率が高くなります。

不純物が無いため、土壤を傷めることもなく、塩類集積を防げます。

肥料成分は速効性が主体ですので、すぐに作物に吸収され、土に残りません。

灌水と同時に施肥すると根元まで早く注入できるので、土壤中で移動しにくいりん酸の吸収効率が特に高くなります。

代表銘柄

銘柄	成分(%)								
	TN	AN	NN	P	K	Mg	B	Mn	Ca
住友液肥 1号	15	2	-	6	6	-	-	-	-
住友液肥 2号	10	1.7	-	5	8	-	-	-	-
住友液肥 8号	8	2.7	-	8	8	-	-	-	-
住友燐安液肥 7-20	7	7	-	20	0	-	-	-	-
ハイチッソ液肥 022	20	2.7	2	2	2	-	-	-	-
住友 PK 液肥 120	1	-	-	12	10	-	-	-	-
スミライム	7	-	7	0	3	3.5	0.12	0.1	9.5

冬場の施設栽培にはスミライム

- 窒素は全て速効的に効く硝酸態窒素です。低温期の追肥、葉菜類の色出し、果菜類の樹勢回復に効果的です。
- カルシウム入りで、トマトの尻腐れ防止になります。
- マグネシウム、マンガン、ほう素などの微量元素が含まれています。微量元素を補給したい場合の追肥に最適です。



「住友液肥」に関するお問い合わせはこちらまで
住友化学株式会社 アグロ事業部 肥料営業部
電話: 03 - 5543 - 5783

[目次へ戻る](#)

今月のお奨め農薬

ユニークなピレスロイド系殺虫・殺ダニ剤 **ロディー乳剤**

ロディー乳剤は、ピレスロイド系のフェンプロパトリンを有効成分とする殺虫・殺ダニ剤です。本剤は殺虫スペクトラムが広いので、冬期の施設栽培に発生する各種害虫(コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類等)に優れた防除効果を発揮します。

フェンプロパトリンは、昆虫の神経系に作用して殺虫活性を発揮します。神経線維(軸索)の表面にあるイオンチャンネルに作用して正常な電気信号の伝達を阻害します。このため、昆虫に異常興奮と興奮伝導の抑制(神経伝達が遮断)が起こります。その結果、フェンプロパトリンを処理した害虫はむやみに走り回ったり、痙攣などの症状を起こしてまもなく死にいたります。



ロディー乳剤

【ロディー乳剤の主な特長】

1. 殺虫スペクトラムが極めて広い

野菜、茶、果樹のアザミウマ目(スリップス類)、チョウ目(チョウ・ガ類)、カメムシ目(カメムシ類、アブラムシ類、コナジラミ類、ウンカ・ヨコバイ類)、ハエ目およびダニ目等の主要害虫に優れた防除効果があります。

2. 殺虫力と速効性に優れる

接触作用により強い殺虫活性を発現します。薬液が害虫にかかるとその反応は速く、いわゆる“ノックダウン”効果を示します。

3. ハダニのリサージェンス^{*}が起こりにくい

殺ダニ活性があり、また他のピレスロイド系薬剤に比べて天敵への影響が少ないので、ハダニ類のリサージェンス^{*}が起こりにくい薬剤です。

^{*}リサージェンス:害虫防除のために農薬を散布した時に、害虫の数(発生密度)が散布前、あるいは農薬を散布しなかった場合に較べてかえって多くなる現象のことです。

4. 特異な作用がある

摂食阻害、産卵抑制などの忌避作用により、作物を害虫から守ります。

【ロディー乳剤の上手な使い方】

ボルドー液と混用する場合は使用直前に行う。

ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすいので、本剤の連続使用は避け、作用性の異なる他の殺ダニ剤(オサダン(フロアブル・水和剤25)や粘着くん液剤など)と輪番で使用する。

(鳥取)

[目次へ戻る](#)

今月のご相談から

ベンレート水和剤の

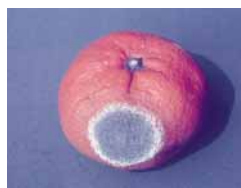
「かんきつ/貯蔵病害」防除について教えてください！

Q1. ベンレート水和剤は「かんきつ/貯蔵病害」に登録がありますが、どのような病害に有効なのですか？

A1. ベンレート水和剤が有効な「かんきつ/貯蔵病害」は、「緑かび病、青かび病、軸腐病、炭疽病、黒斑病」です。この他の貯蔵病害としては、「白かび病、黒腐病等」があります。



緑かび病



青かび病



軸腐病



炭疽病



黒斑病

Q2. ベンレート水和剤の優れているポイントを教えてください。

A2. 幅広い抗菌スペクトラム

「緑かび病、青かび病、軸腐病、炭疽病、黒斑病」のいずれにも効果を示します。

「みかん」には収穫前日まで、「かんきつ(みかんを除く)」には「収穫7日前まで」使用可能
様々な品種を混植している地域などでも、安心して使用できます。

優れた耐雨性

散布後に雨が降っても効果が持続します。近年の降雨の増加に伴い、薬剤散布後の降雨の影響が心配されていますが、本剤は耐雨性が非常に優れています。

優れた残効性

長期貯蔵でも効果が持続します。



ベンレート水和剤

Q3. 「かんきつ/貯蔵病害」の総合防除対策として有効な防除方法を教えてください。

A3. ベンレート水和剤に作用性の異なる殺菌剤を混用して散布することで、それぞれの薬剤の弱点を補い合い、より幅広い貯蔵病害に対する防除効果が得られることが判明しています。

具体的な指導例としては、佐賀県の「平成23年度施肥・病虫害防除・雑草防除の手引き」(214~217ページ)又は、佐賀県のホームページ(以下)をご参照下さい。
佐賀県のホームページ:

<http://www.pref.saga.lg.jp/web/shigoto/1075/32933/ns-nougyou/50453.html>

また、以下のような耕種的防除も重要です。

- ・ 貯蔵性の高い果実を作る為の管理(Ca剤の施用、園内の通風、乾燥、水はけ等の改善など)果実に傷を付けない丁寧な収穫作業、雨中や降雨翌日の収穫の回避、適切な予措と貯蔵管理。
- ・ 病原菌の密度低下(摘果果実、落果果実の除去、貯蔵庫内での発病果実の除去)

(小川)

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

10月27日付け、11月9日付け、11月10日付けで、適用拡大・登録内容変更がありました。
(内容が多岐にわたるため、今回はいつものような表記と違い、以下のような表記とさせていただきます)

【10月27日付登録】**スミチオン関連剤(使用制限を伴う変更)**

以下の薬剤で、使用制限を伴う登録内容変更がありました。対象薬剤が多く、変更内容が多岐に渡るため、詳細はi-農力ホームページでご確認ください。

なお、スミチオン乳剤の変更には、適用拡大も同時に登録されています。

<対象薬剤>

スミチオン乳剤、スミチオンMC、スミチオン水和剤40、スミチオン粉剤2DL、スミチオン粉剤3DL、スミバッサ粉剤20DL、スミバッサ粉剤50DL、住友スミバッサ乳剤75、スミロディー乳剤、ガットキラール剤、ガットサイドS、デラウススミチオン粉剤DL、家庭園芸用スミチオン乳剤

フサライド関連剤(使用制限を伴う変更)

以下の薬剤で、使用制限を伴う登録内容変更がありました。対象薬剤が多いため、詳細はi-農力ホームページでご確認ください。

<対象薬剤>

ハスラー粉剤DL、ハスラーS粉剤DL、ブラシン水和剤、ブラシンゾル、ブラシンフロアブル、ブラシン粉剤DL、ブラシンキラップ粉剤DL、ブラシンジョーカーフロアブル、ブラシンジョーカー粉剤DL、ブラシンドアントツH粉剤DL、ブラシンドアントツフロアブル、ブラシンドアントツ粉剤DL、ブラシントレバリダ水和剤、ブラシントレバリダ粉剤DL、ブラシントレボン水和剤、ブラシントレボン粉剤DL、ブラシンパダントレバリダ粉剤DL、ブラシンバリダゾル、ブラシンバリダフロアブル、ブラシンバリダ粉剤DL、ラブパダンバリダB粉剤DL、ブラシンバリダジョーカー粉剤DL、ブラシンバリダダントツH粉剤DL、ラブサイド粉剤DL、ラブサイドフロアブル、ラブサイドスミチオン粉剤3DL、ラブサイドスミチオントレボン粉剤DL、ラブサイドスミバッサ粉剤50DL、ラブバッサバリダスミ粉剤DL、ラブバリダスミ粉剤3DL、STラブバリダトレボン粉剤DL

アディオ乳剤(使用制限を伴う変更)

「てんさい」の使用時期が、「収穫7日前まで」から「収穫21日前まで」に変更になりました。

アディオ水和剤(使用制限を伴う変更)

「てんさい」の使用時期が、「収穫7日前まで」から「収穫21日前まで」に変更になりました。

アディオフロアブル(使用制限を伴う変更)

作物名「ぶどう」が、「大粒種ぶどう」に変更になりました。

マラソン粉剤3(使用制限を伴う変更)

作物「稲」が削除になりました。

住化バッサ乳剤(使用制限を伴う変更)

「稲」の使用法「無人ヘリコプターによる散布」および「空中散布」が削除になりました。

「すいか」の「本剤の使用回数」および「BPMCを含む農薬の総使用回数」が、それぞれ「4回以内」から「3回以内」に変更になりました。

ダントツ水溶剤

以下の作物が追加になりました。

・にら(花茎)(適用害虫:アブラムシ類、ネギアザミウマ)

・はなっこりー(適用害虫:アブラムシ類)

・オリーブ(適用害虫:オリーブアナアキゾウムシ)

「てんさい」の使用法「苗床灌注」に、適用害虫「アブラムシ類」が追加になりました。

「ぶどう」に、適用病害「ブドウトラカミキリ」が追加になりました。

「かんきつ(苗木)」に、適用害虫「アゲハ類」が追加になりました。

「ブルーベリー」の適用害虫「アブラムシ類」の希釈倍数が、「2000 倍」から「2000～4000 倍」に変更になりました。

ブレオフロアブル

「リーフレタス」に適用害虫「ナモグリバエ」が追加になりました。

「だいず」の希釈倍数「1000～2000 倍」に、適用害虫「マメシクイガ」が追加になりました。

「ばれいしょ」に、適用害虫「ハスモンヨトウ」の希釈倍数「1000～2000 倍」が追加になりました。

「かんしょ」及び「さといも」の適用病害虫名「ハスモンヨトウ」の希釈倍数が、「1000 倍」から「1000～2000 倍」に変更になりました。

「アスパラガス」に、適用害虫「ネギアザミウマ」が追加になりました。

作物名「きく」が、「花き類・観葉植物」に変更になりました。

リゾレックス水和剤

以下の作物が追加になりました。

・にら(適用病害:白絹病)

・ふだんそう(適用病害:立枯病)

・未成熟そらまめ(適用病害:茎腐病)

・みつば(水耕栽培)(適用病害:立枯病)

作物名「りんご」の使用液量が「40L/樹」となりました。

使用方法「散布」について、使用液量が新たに設定されました。

【11月9日付登録】

ブルートMC

「茶」の使用時期が「1月から3月(一番茶摘採30日前まで)」に変更になりました。

【11月10日付登録】

スタウトダントツ箱粒剤

「稲(箱育苗)」に適用病害「白葉枯病」および適用害虫「ニカメイチュウ」が追加になりました。

「稲(箱育苗)」の適用害虫「フタオビコヤガ」の使用時期が「移植当日」から「は種時(覆土前)～移植当日」に変更になりました。

「稲(箱育苗)」に使用時期「は種前」、使用方法「育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する」が追加になりました。

「稲(箱育苗)」に適用害虫「イネヒメハモグリバエ」が追加になりました。(使用時期:移植3日前～移植当日)

スタウトダントツ箱粒剤08

「稲(箱育苗)」に適用病害「白葉枯病」が追加になりました。

「稲(箱育苗)」に使用時期「は種前」、使用方法「育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する」が追加になりました。

詳しくは [i-農力サイト](#) でご確認ください。

(佐伯)

[目次へ戻る](#)

病害虫発生情報

11 / 6 ~ 11

東京都

* 11月8日 特殊報 キャベツ、ブロッコリー他あぶらな科 / ケブカノメイガ

当社登録薬剤: 該当なし

詳細は: <http://www.jppn.ne.jp/tokyo/>

**福岡県**

* 11月11日 特殊報 水稲 / イネ南方黒すじ萎縮病(仮称) セジロウンカによって媒介

当社登録薬剤: 嵐ダントツ箱粒剤、スタウトダントツ箱粒剤、ダントツ水溶剤、ダントツ箱粒剤、ダントツオリゼメート10箱粒剤、デラウスプリンスリンバー箱粒剤、デラウスプリンス粒剤10、プイゲットプリンスリンバーL箱粒剤、プリンスリンバー箱粒剤(生育初期の防除が重要なことから、ウンカ類に登録のある箱施用剤を掲載します)

詳細は: <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

佐賀県

* 11月9日 特殊報 ブロッコリー / トビイロシワアリ

当社登録薬剤: 該当なし

詳細は: <http://www.pref.saga.lg.jp/web/boujo>

適用内容を確認して、地域に適した薬剤をお使いください。

(小川)

[目次へ戻る](#)



最近の「お・・美味しい！」

弊社相談室から佐伯がお送りします
最近の「お・・美味しい！」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ！」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪♪

豆料理奮闘記あれこれ

今年も恵みの収穫物(じゃがいも・お豆たち)が本社宛に届きました。(札幌営業所の皆様ありがとうございました!)。じゃがいもは男爵のみでしたが、お豆さんは小豆・金時豆・手亡豆のなんと3種類も!(しかも大量に)。当然ながら届いたお豆さんたちは固い状態のものでした。私の中では、通常料理で使う豆という水煮の缶詰!という感覚なので、「いただいたのは嬉しいのだけど、どうしよう?」というのが本音でした。同じく、配給を受けた(笑)本社の同僚も「ううう。どうすれば・・・?」という感覚だったみたいです。しかしせっかくだいただいたのだから、ここは1つチャレンジしてみよう!ということで、皆それぞれ奮闘しました。今回は、その奮闘の様子をお届けします。

私は、3種類のお豆さんのうち「金時豆」をもらって帰りました。そう、あの赤くて粒の大きいお豆です。実は私、甘いものがあまり得意ではないため、なんとかこの金時豆をおかずに使えないか?と考えていたところ、同僚が金時豆でチリコンカン(メキシコの豆料理)を作ったというので、私も真似て作ってみました。まず豆を戻すところから・・・!朝出かける前にポウルに豆を入れて水で浸し、そのまま放置!夕方帰宅するとぼわ~っと膨張し見事に「戻って」いました。チリコンカンとは、ひき肉と野菜、そして金時豆をスパイス(チリ)とトマ



佐伯家チリコンカン
(白いのは目玉焼き)

トで煮込んだ料理です。ひき肉・野菜をいためてブイヨンとトマト缶で煮て、煮立ったところに戻した豆をそのまま投入!味付けは家にあったそれっぽいスパイスを適当に・・・。初めて作ったわりには美味しかったです。ただ、やはり適当に作ったため豆が均一に煮えていなかったみたい。柔らかいのもあれば少し固いのもありました。やっぱり一度煮こぼさないとダメなのか?この反省点は次回に活かします(笑)。

そしてここから同僚の話。「手亡豆」をもらっていった同僚は、これまた扱いなれない食材に苦労した模様。煮加減が難しかったのか、すっかり柔らかくなってしまったそうです。そこで、その柔らかくなってしまった手亡豆に砂糖を加えて、なんとパンケーキに添えて



某同僚宅のおしゃれブランチ
(ステキ!)

いただいたとのこと(なんておしゃれ!).「裏ごしはしなかったけどね~、美味しかったよ!」う~ん!さすがです。また、別の同僚は、3種類ももらって帰ったツワモノ(?)です。小豆は定番のお赤飯に、金時豆と手亡豆はこれも定番、甘く煮ていただいたそうです。お赤飯を炊くために、わざわざもち米を購入したそうですから気合の入りが違います。きれいに赤く染まったお赤飯はもちもちで美味しそうでした。金時豆と手亡豆の煮たのは食べさせてもらいました。甘さが控えめで美味しい。自分で作ると甘さも調整できますもんね。こちらもちですが、やりますね!

このように固い状態のお豆さんは、なかなか自分から購入する・・・という感じではなかったですが、なんとと言っても保存が利く食材だし、使いたい時に使いたい量を戻して使えるという便利な面を再認識できました。ほんと、意外と便利なんですよ。「豆は水煮を買うもの」と思っていたら、一度、固いのを使ってみたいですね。ひょっとして違う世界が開けるかも!?(佐伯)



某同僚作煮豆(白いのが手亡豆)
(美味しかった!)

[目次へ戻る](#)

そば談義 71号

みんなでそば屋に出かけて食べるより、自分で打ったそばを食べてもらう方が私は好きである。

人に食べてもらうということは、ある種の緊張感を味わうことが出来るからである。例えば、各地の粉屋さんから取り寄せて、春夏秋冬いつ注文しても品質が安定しているソバ粉や、失敗を重ねて習得した打ち方、体で掴んだゆで加減など、大げさに言えば一杯の「もりそば」に、経験が凝縮しているのである。そのそばを出したとき、食べる人がどのように評してくれるのか、まさに緊張の一瞬である。それに加えて、つゆも最近はつくるようになり、そのつゆがそばに絡んで、「あー美味しい」と云ってくれたときは、最高に嬉しいものである。それから、ソバ粉はどこ



挿絵：川俣さん

の産地のものか、つゆの昆布はどこで仕入れたとか、そば談義に花が咲くのである。

さて、11月は新そばの季節である。この時期、そば打ちを趣味とする人たちは、打つ機会がグーンと増える。私も今月だけで3回ほどそば会を予定している。テニス仲間は勿論、お客様相談担当者仲間も新たに加わった。そして、楽しみなことがもうひとつある。阿蘇山の麓のソバ粉が手に入ったことである。きっかけは、先日福岡を訪れた際、居酒屋で会社の仲間と楽しく酒を酌み交わしたとき、真向かいに座っていたSさんから阿蘇の麓で知り合いがソバを栽培しており、その人もそばを打つとのこと。その人が栽培したソバの粉で「あんた打ってみる気はないか」と言うのである。その時、二つ返事でぜひとも欲しいとお願いした。そのそば粉が我が家に届いている。近々、予定のそば会に、阿蘇産のそば粉といつも取り寄せているそば粉を打ち、食べ比べしてもらおうと思っている。

ところで、私には夢がある。故郷の田舎には猫の額ほどの土地がある。そこでソバを栽培してみたいのである。そのソバで、三たて（挽きたて、打ちたて、ゆでたて）を味わいたいのである。私も今年で定年を迎えるが、会社には暫く厄介になる。しかし、現職と比べて少し休みを多く頂き、毎月年老いた両親の様子を見るために帰省しようと思っている。そして、ただ単に帰省するだけではつまらないので、ソバを栽培しようと思う。晩秋になると我が家のたんぼには白いソバの花が咲き、それが黒い種子になり、その種子をゆっくりと石臼で挽く姿が目に浮かぶのである・・・(古津)

～ 編集後記 ～

早いもので本誌は、創刊から71回を迎えます。

創刊当初は軽い気持ちで始めましたが、最近はコンプライアンス上からも厳しい社内チェックを受けています。その中で、殆どフリーパスは「そば談義」です。要するにどうしてもよい文章ということですが、連載回数だけは本誌と同じです。

さて、私も今年の年末には定年を迎えることになりました。これがいい区切りかと思ひ、来月号をもちまして「そば談義」を終了いたします。正直、そば打ちを続けられたのは、「そば談義」を書く材料が欲しいだけだったのでは、と自問することもあります。しかし、そばを通して沢山の仲間が出来、それだけではなかったとも思います。最後に、私の拙い文章を長い間ご覧いただきありがとうございました。改めてお礼申し上げます。

(古津)



挿絵：川俣さん

[目次へ戻る](#)